


国名 :  フィリピン共和国

観察エリア : マニラ市内道路

観察エリアの基本情報 : 一般道

参考HP : <http://www.youtube.com/watch?v=9yoUkiYyC04> (ABS-CBN News : YouTube 2012/11/15)

レポート期日 : 2013年 8月現在 ※ 上記HPは、マニラ市内に自転車レーン設置についてのフィリピンの民営放送局編のニュース動画です。

( ※ 実際に現地で観察した感想を基に記述しています。下記全ての内容は、変化している可能性もあります。ご了承ください。 )

現在のサイクリング環境 ( 道路整備・コース整備・社会的認知度等 ) :

- ・MMDA (The Metropolitan Manila Development Authority) マニラ首都開発局が、2013年を中心に、市内各所に、バイクレーンを設置している。交通システムの一つとして、自転車を積極的に導入し、排気ガスによる大気汚染の削減・市民の健康に貢献することが目的。同時にMMDAは、シェアサイクルシステムをスタートさせた。これは、自転車愛好家ばかりでなく、一般の自転車利用を増やすことも目的としている。[参考記事](#)
- ・車輛による排ガス汚染も深刻なマニラでは、2010年に『マイカーを止めて、電車と自転車の利用を促すキャンペーン』等も開かれたようである。折りたたみ自転車で、電車に乗る参加者の姿なども報じられていた。[参考記事](#)
- ・バサイ市のカルティマル市場には、十数軒の自転車屋街が有る。子ども用～大人用のMTBやロードレーサーまで販売されている。ただし、高額なスポーツ車輛の市場規模は小さい。
- ・マニラ市内では、日本のように通勤・通学・買い物やレジャーとして、自転車を利用する人は現状では少ない。代わりに、合法ではないようだがタクシーとして、自転車のサイドカータクシー (ペディキャブ) が多数みられる。
- ・多くのフィリピン人の一般的な月収が12,000円前後に対し自転車が4000円～8000円台という状況と、盗難も多いことがこれまで自転車利用者が増加しなかった要因のようである。一方、富裕層には、自転車をスポーツとして愛好する人も増えているようで、ロードレース等も開催されているようだ。

( ※ 一部情報を、AFP通信・マニラ新聞・PhilStar.comのWeb記事より収集 )



マニラはフィリピンの首都、人口は約 166 万人の大都市【2007】である。

キレイなショッピングモールもあり、日本にいるのとほとんど変わらない。交通手段は車が主流で、とても多くの車が走行している。ジプニーと呼ばれる乗り合いバスが、安くて便利だ。(降り方が不明で少々戸惑う…)。ここまでだとマニラは、比較的裕福な都市の思われるだろうが、



街を歩いていると、そんなことはなかった。路上で生活している人がたくさんいたからだ。そこには、大人だけでなく、子ども達の姿もよく見かけた。



ちなみに路上で生活している人たちが、よく所有していたものが「自転車タクシー」だ。フィリピンではトライシクル(tricycle) やペディキャブ(Pedicab)と呼ばれているらしい。しかし、ここマニラは自動車主流の社会。京都のような観光地でもないの、この人力車に乗る人はほとんどいない。そのため、代わりとして広告をタクシーに貼り付けて、そこからわずかながらの収入を得ているようである。そのペディキャブを、家代わりとして使用している人も多く見かけた。その小さな乗車スペースに、足をはみ出すようにして、3人くらいが入って寝ていた。ここフィリピンは降水量が世界10位に入るほどの多雨国。小さな乗車スペースでは、安心して眠れる日も少ないに違いないと感じた。



このような社会状況と自転車環境の中、フィリピンの人たちは笑顔がとてもキレイだったと感じた。裕福でなくても、笑顔がキレイ。笑顔は心を表すと思う。時に犯罪も多い社会状況ではあるが、とてもきれいな心を持っている人が多い国だと感じた。

